

# 令和8年度〔2026年度〕 学校推薦型選抜

## 小論文問題

〈60分〉

### 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等があった場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
3. 問題冊子は、どのページも切り離してはいけません。
4. 解答用紙には「受験番号」「氏名」を記入しなさい。
5. 解答は「解答用紙」に記入しなさい。

東京医療保健大学  
千葉看護学部

## 問題

次の文章を読み、問1から問4に答えなさい。

文部科学省では昭和39年以来、「体力・運動能力調査」を実施して、国民の体力・運動能力の現状を明らかにしています。平成11年度の調査からは、国民の体位の変化、スポーツ医・科学の進歩、高齢化の進展等を踏まえて、「新体力テスト」が導入されています。

また中央教育審議会は、平成13年4月に文部科学大臣からの諮問を受け、子どもの体力の現状を認識し、体力低下の原因を分析するとともに、子どもに求められる体力や体力向上の目標を検討し、今後早急を実施すべき子どもの体力向上のための総合的な方策を提案しました。

参考：社会福祉法人愛育研究所「日本子ども資料年鑑 2025」

東京都「令和6年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」

スポーツ庁「令和3年スポーツ庁委託事業 児童生徒の1人1台のICT端末を活用した体育・

保健体育授業の事例集」

文部科学省「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン（令和7年3月）」

問1 図1は平成11年度と令和5年度における新体力テスト合計点の平均値を男女別年齢別に示しています。この図を読み取った次の文章の( ① )～( ④ )に適切な記号や数字を記入しなさい。なお、①はAまたはBを選択、②③は整数、④は小数第3位を四捨五入し、小数第2位まで答えなさい。

12歳から18歳までの各年齢において平均値が高いのは、男子・女子ともに( ① A. 平成11年度、B. 令和5年度 )であった。平成11年度の平均値が一番高かったのは、男子( ② )歳、女子( ③ )歳であった。  
令和5年度の12歳から18歳までの男子で、一番高い平均値が一番低い平均値の( ④ )倍となる。

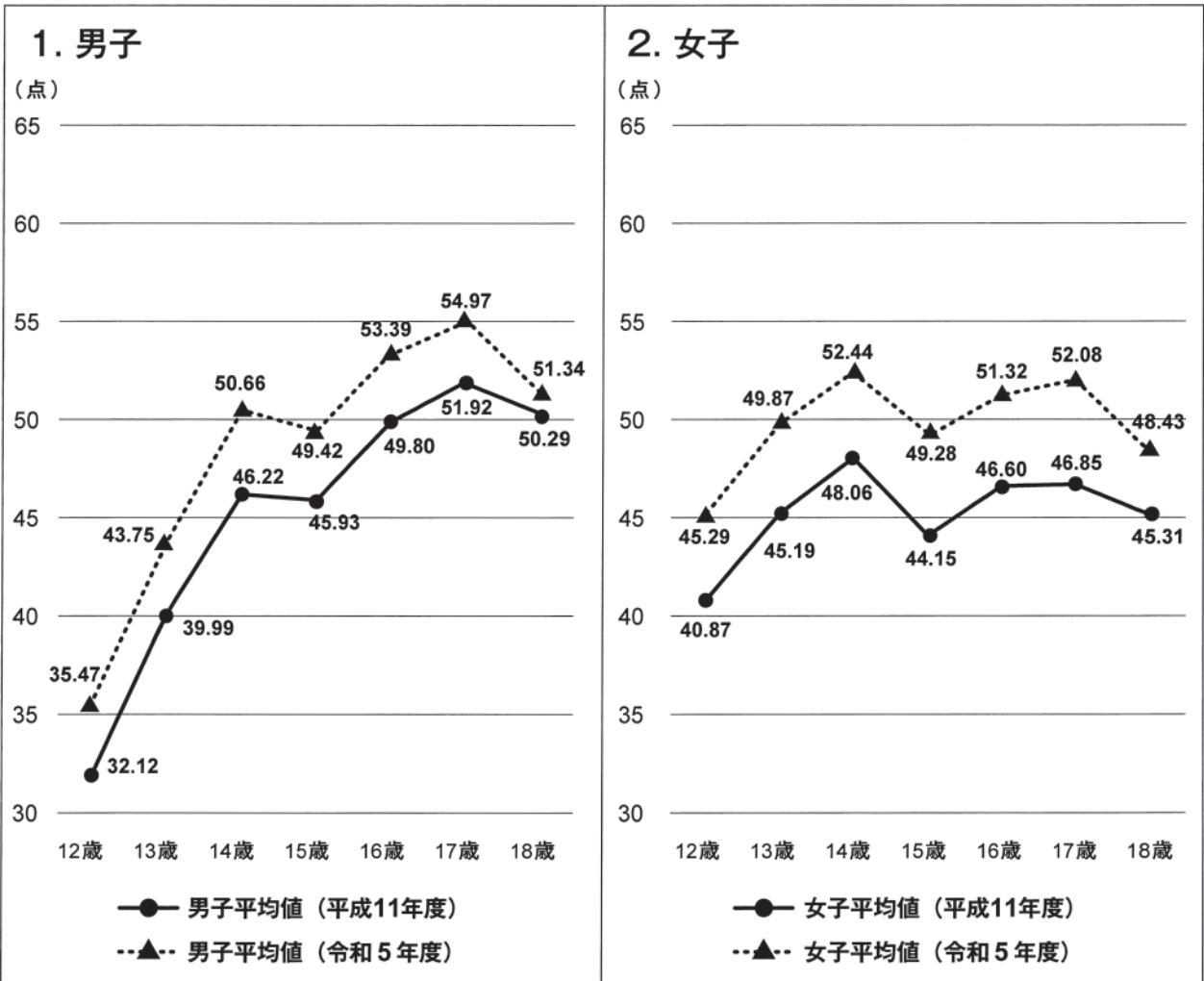


図1 12～18歳の新体力テストの合計点の男女平均値(平成11・令和5年度)

出典：社会福祉法人愛育研究所「日本子ども資料年鑑 2025」児童・生徒・青少年の体力・運動能力(平成11・令和5年度)をもとに一部改変して作成

注：新体力テスト：平成11年4月から、6～79歳までを対象に全国で行われている新体力測定

問2 中学生、高校生の運動機会の1つに保健体育の授業があり、総合的な方策では、その充実が推奨されています。表1は、令和6年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査の結果であり、保健体育の授業において「できないことができるようになったきっかけ・理由」の生徒による回答の割合（全学年の平均）を示しています。次の①～③について、表1から読み取れることとして、正しいものには○、誤っているものには×を解答欄に記入しなさい。

- ①中学校、高等学校ともに、生徒ができるようになったきっかけとして最も多く回答していたのは、「友達同士で教え合い促進」である。
- ②中学校より高等学校の方が回答の割合が高いのは、「授業中に生徒自らが工夫して練習」のみである。
- ③中学校の回答では、「授業外の指導」「授業外の練習促進」「授業外の時間に生徒が本や映像を見て勉強」のいずれも、1割に達していない。

表1 保健体育で「できないことができるようになったきっかけ」

回答	%	
	中学校	高等学校 (全日制)
授業中にコツやポイントを指導	37.2	36.1
授業中に生徒自らが工夫して練習	36.5	40.8
その生徒にあった場やルール等の用意	9.0	6.6
教員や友達の真似	54.7	41.0
友達同士で教え合い促進	57.7	44.5
授業中に自分の動きの動画を視聴	9.4	3.5
授業外の指導	4.3	1.9
授業外の練習促進	14.8	7.1
授業外の時間に生徒が本や映画を見て勉強	6.3	3.6

※数値は全学年の平均を記載

出典：東京都「令和6年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査結果」をもとに一部改変して作成

**問3** 文部科学省では、知識や技能の習得、思考力、判断力、表現力の育成等を目指して、保健体育指導におけるICT（情報通信技術）の活用を推奨しています。例として、体育分野では学習に必要な情報の収集やデータの管理・分析、課題の発見や解決方法の選択、保健分野では健康情報の収集、健康課題の発見や解決方法の選択などへの活用が挙げられています。

次の文章はこれまで経験した保健体育の授業へのICTの活用について、高等学校の生徒が話した内容です。生徒AおよびBの発言を用いて、保健体育の授業へICTを活用する利点について、200～250字で記述しなさい。

**生徒A** 小学生のとき、苦手だった跳び箱の授業でタブレット端末を使いました。先生から配信された動画を事前に視聴し、スローや拡大で繰り返し確認できたので理解が深まりました。でも動画で見るのと実際にやるのでは大違いで、勢いよく踏み込んだけれど跳ぶことができませんでした。その時に先生が撮影した自分の映像を見ると踏み込み位置が後ろすぎると気づき、修正すると成功できました。うまく跳べて嬉しくなり、もっと練習したいと思いました。

**生徒B** 僕は中学の時のバスケットボールの授業かな。体育館にある大きなモニターに撮影した動画を映し出し、作戦を考えたり姿勢を直したりしました。大きな画面で見やすかったけれど、大人数で限られた時間しか見られなかったのもっと自由に見たいといつも思っていました。動画のインターネットへの流出を考えて家に持ち帰ったりできませんでした。動画に選手の動きを矢印で書き込みながら話し合うことでイメージがつかみやすくなりました。先生に指摘されるよりも、自分たちの力で話し合いができたのが良かったです。

出典：スポーツ庁「令和3年スポーツ庁委託事業 児童生徒の1人1台のICT端末を活用した体育・保健体育授業の事例集」

**問4** あなたの高等学校では、中学生を対象にICTを活用したスポーツ体験イベントを生徒主導で行うことになりました。あなたのグループは3名で創作ダンスを通して自己表現の楽しさを体験できる企画を担当します。あなたは「ICTを活用する方法」についての提案をすることになりました。

当日は、インターネットに接続可能なタブレット端末2台と大型モニター1台が使用できます。ICTを活用して活動を進める際には、動画の撮影や表示に伴う情報流出のリスク、また撮影時の相手への配慮なども考える必要があります。

進行方法を含めた具体的な企画内容について、次の①②の観点をふまえて考え、360～450字で記述しなさい。

- ① 企画の目的を達成するためにICTをどのように活用するか
- ② ICTを活用する上での注意点とどのような対策が必要か

出典：文部科学省「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン（令和7年3月）」